様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　 ５ 月 １８ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2019～2023
課題番号：１９Ｋ０２００７

研究課題名（和文）リスクのオンバランス化による会計・財務数値および企業行動への影響分析

研究課題名（英文）Analysis of the impacts for on-balancing of risk on financial statements and corporate behavior

研究代表者
久保　淳司（KUBO, Junji）

北海道大学・経済学研究院・教授

研究者番号：７０３２２７９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は，リスク情報のオンバランス化が会計数値あるいは財務数値，そして企業行動に対して，どのような影響を及ぼすのかの解明を目的としてきた。
企業が保有するリスクの多くは，現状ではオフバランスであり，財務諸表の構成要素として位置づけられていない。しかし，今日の会計の変容に鑑みると，オフバランスとされている理由が解消し，近い将来に多くのリスクがオンバランスされる事態も想定される。
本研究では，アメリカ会計基準の設定過程を中心とした検討を通じて，リスク情報のオンバランス化を正当化する2つの根拠（ソレイユ型とリュンヌ型）の存在，両者の関係，並存する理由を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究では，一般に「リスク」として一括りにされている事象は，意思決定との関わりによって，能動的意思決定に関わる（狭義の）リスクと，受動的意思決定に関わる危険とに分けられることに着目し，財務諸表における会計認識についても，これらを区別することによって，財務報告の有用性が向上することを解明した。特に，（狭義の）リスクに係る会計処理が予防概念と，危険に係る会計処理が未然防止概念と密接に関わることを導いたことで，財務会計論についても，今日のリスク社会という文脈による理解可能性があることを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study has been to reveal how the on-balancing of risk information affects accounting figures as well as corporate behavior.
Most of the risks held by firms are currently off-balance sheet and not positioned as components of financial statements. However, in light of today's accounting transformation, it is possible that the reasons for being considered off-balance sheet will be removed and many risks will be on-balance sheet in the near future.
This study clarifies the existence of two justifications for the on-balancing of risk information (Soleil type and Lune type), the relationship between them, and the reasons for their coexistence through an investigation focusing on the process of setting U.S. accounting standards.

研究分野：会計学

キーワード：リスク情報　ソレイユ型　リュンヌ型　危険　未然防止　予防

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

１．研究開始当初の背景

研究開始当初においては，企業価値にポジティブな影響を有するインタンジブルズのオンバランスに関する議論が増えていた。そこでの議論は，有形固定資産中心の近代会計から無形資産中心の現代会計への変容が指摘され，これまでオンバランスされてこなかったインタンジブルズのオンバランスの必要性が主張されるものであった。そのような議論が進んでいる以上，企業価値にとってリスクというネガティブな面についての議論も必要なはずであり，事実，不祥事発覚による株価下落，M&A の失敗や巨大事故による巨額の損失計上あるいは優良企業の突然の破綻や身売りが社会的な問題になっていた当時の状況において，企業財務に関係するリスクへの社会的関心は高まっていたのである。そこで，当時においてはオンバランスされていないリスクをオンバランスすべきという主張が強まると考えられ，今日進む会計の変容に鑑みると，それらのオンバランス化が単なる主張にとどまらず，現実化する事態も想定されていたのである。

２．研究の目的

本研究の目的は，当時の会計制度上オフバランスであったリスクをオンバランス化することで，会計・財務数値および企業行動に対して，どのような影響を及ぼすのかを解明することであった。

３．研究の方法

本研究では，主に，リスクの特定とその一覧化・類型化およびプロフォーマ財務諸表の作成と財務数値への影響度分析を予定していた。

まず，現行の財務諸表においてオンバランスされていないリスクの内容の特定を行った。本研究以前の申請者の研究によれば，これらがオフバランスとされてきたのは，財務報告の目的に適合しない（たとえば，組織の士気低下などの内生リスクなど），財務諸表の構成要素としての定義を充足しない（取引先の集中といった一般的ビジネスリスクなど），認識要件を満たさない（実際に起きる確率の低いリスクなど），測定できない（当該企業で未経験のリスクなど）といった理由であった。これに基づいて，「有価証券報告書」の事業等のリスクに記載されている情報に基づいて，それぞれに該当するリスクを具体的に特定し，その上で，内容およびオフバランスの理由別に一覧化し，類型化を図った。

そして，上記で類型化した各リスクについて，リスクの性質や内容に応じて，SFAS5 型と SFAS143 型のいずれの方法が適合的かを検討し，この後の分析の客観性を高めるために，それぞれのリスクへの SFAS5 型と SFAS143 型の適用方法の統一を図った。その上で，それらのリスクをオンバランスした仮定の財務諸表（プロフォーマ財務諸表）を作成し，実際の財務諸表とプロフォーマ財務諸表との差異を，これまでオフバランスであったリスクのオンバランスによる影響度として把握する。この検討によって，リスクの性質や内容ごとに，財務数値への影響度を把握可能にした。

４．研究成果

本研究の最大の研究成果は，アメリカ会計基準について，リスク情報のオンバランス化を正当化する 2 つの根拠（SFAS5 型=ソレイユ型，SFAS143 型=リュンヌ型）の存在，両者の関係，並存

する理由についてまとめ，学術書として出版したことである。

具体的には，以下の内容を学術書によって社会に発信した。ソレイユ型は，SFAS5，FIN14，SFAS112，SOP96-1 といった会計基準で採用されており，認識要件としての蓋然性要件の採用を中軸とする会計処理の方法である。リュンヌ型は，SFAS143，SFAS146，FIN47 といった会計基準で採用されており，当初測定値として実質的には期待値を意味する公正価値の採用を中軸とする会計処理の方法である。また，債務のうち経営者の能動的な意思決定に起因して生成される債務を基礎にする債務性要件の採用も重要な意味を持つ。そして，因果関係を基礎に演繹的に導出される会計処理モデルとの比較，過去事象との関連における負債の本質観，2 つの会計処理が存在する理由について詳細な検討の結果，ソレイユ型は受動的な意思決定に起因する片側リスクを対象として，その早期認識として機能する会計処理であるという相違がある。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計1件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 KUBO Junji and HIYMA Jun	４．巻 69(1)
２．論文標題 Reasonable Estimation of the Amount of Loss in ASC 450-20, “Loss Contingencies”	５．発行年 2019年
３．雑誌名 經濟學研究	６．最初と最後の頁 17-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　1件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 久保淳司
２．発表標題 プログレッシブジャックポット負債の認識－負債の本質観からの検討－
３．学会等名 第100回日本会計研究学会北海道部会
４．発表年 2021年

１．発表者名 久保淳司
２．発表標題 危険とリスクの会計（The Structures of Accounting for Risks ）－アメリカ会計基準の設定過程を通じた理論研究－
３．学会等名 第42回日本公認会計士協会研究大会（招待講演）
４．発表年 2021年

〔図書〕　計1件

１．著者名 久保淳司	４．発行年 2020年
２．出版社 中央経済社	５．総ページ数 611
３．書名 危険とリスクの会計 ： アメリカ会計基準の設定過程を通じた理論研究	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関